



真宗大谷派 存明寺通信

No.186

2018年(仏歴2549年)9月20日発行

親鸞聖人と出会う

- ・ 悲しみや悶えが大事なんです。それを転換の契機とならしめるのが念仏なんです。
- ・ 自分自身をそのまま受け止めることができるには、それに先だって自分をまるごと受け止めてくれる人に出会う必要があります。

(二階堂行邦 『自分が自分になる』)

- ・ 私たちは仏から願われていると同時に、悲しまれている存在なのです。
- ・ 「私の生き方は本当にこのままでいいのだろうか？」この問いこそが私たちに仏法を聞かせ、仏道を歩ませてくれるのです。

(黒萩 昌 『問いに生きる』)



宗祖親鸞聖人絵像



存明寺HP、随時更新中 親鸞と出会うお寺

<http://www.zonmyoji.jp>

グリーンフケア

— 悲しみから希望が生まれる —

おかくてるみ
尾角光美さん(グリーンフケアを広める素敵な人)×酒井義一住職

語ること、聞くことを
本当に大切にしている世界

尾角 語ることや聞くことはとても大事ですね。大切な人を亡くした方のその後の人生は、その死が何だったのかをずっと探り続けることになります。それはいつも心のどこかであって、私自身、母を亡くして15年たった今でもあるんです。

ただし、意味を探るといっても、一人きりで探りされるわけじゃない、やはり誰か聞いてくれる他者が必要なのです。人に語っているうちに意味が見つかることもあると思います。私自身、例えば自殺という死のあり方をどう捉えているのかということや自分の中で何度も何度も反芻し続けましたが、

それをいろんな人に聞いてもらえたからこそ、何がしかの意味を見出していったんじゃないかと感じています。

酒井 そうですね。人生には苦しいことや悲しいこと、辛いことがいろいろ起こるけど、なぜそんなことが起こるのか、その意味がわからない。それは誰にとっても共通の課題じゃないかと思えます。だけどそんな時に、例えば新しい人と出会ったり、思いがけない言葉が耳に飛び込んで来たり、温もりのある世界に包まれたりすると、やっぱり人間って独りじゃないんだと感じられる。そういうことが大きなきっかけになって、次の一歩を踏み出せることもあるんじゃないかと思えます。

悲しみを乗り越えない
その中から希望が生まれる

尾角 グリーンフケアのつどいの参加者から出てきた声で、とりわけ印象に残っているのはありますか。
酒井 いちばん心に残っているのは、「悲しみは消さなくていい」ということをこの場で感じました」という感想です。そして、「これからは悲しんだことの意味を尋ねていこうと思います」と。これは本当に大事にしなければいけない声だな、と思いました。

尾角 私たちもそのことをとても大事にしていて、「悲しみを乗り越えなくていい」ということをはっきりと言います。悲しみを乗り越えるのではなく、大切に抱えて生きていく。それをお手伝いするのが私たちの役割だと思っっているんです。

何度でも現れてくる悲しみを大切にし、それを一人で抱えるのがしんどかったら、ちよつと誰かに一緒に抱えてもらおう。そういうことを大事にしています。

酒井 悲しみを乗り越えて完成形を目指すのではなく、あえて悲しみを抱えたままの未完成の状態を生き続ける。だからこそ、人と悲しみを分かち合える場をつくらうという意欲が湧いてくることもあるのだらうと思います。

尾角 私たちは「悲しみから希望が生まれる」という言い方をよくします。つまり、悲しみを消して希望に変えてしまうのではなく、悲しみはそのままに持ち続けられ、やがてその中から希望が生まれてくるんですね。(以上抜粋)

← 10月1日発行の月間『同朋』
ご希望の方にお分けします。
お寺までご連絡ください。



住職日記

【新盆合同法要】7月7日

一年間の物故者をしのび、ご遺族55名が集まり、存明寺有縁の僧侶4名が出仕して「新盆合同法要」が行われた。本堂で法要・焼香の後、住職より「大切な方と別れた時に大切にしたいこと」という法話があった。

その後、客殿に移動して会食。

会食中にはお酒も入り、各家庭の代表者からひとことスピーチがあり、亡き人への思いなどが語られた。多くの方々と共に、亡き人へのぶひとときとなった。

【青年のつどい】8月25日

「夏の終わりはお寺でバーベキュー」存明寺の恒例の行事となりつつある青年のつどい。今年は32名が参加して行われた。オープニングではスタッフのスピーチの後乾杯。ビア缶チキンやシャシリクなど、ちよつと凝ったバーベキューを楽しんだ。

今回のつどいは、すでに存明寺

の諸活動に参加している若い世代の方々が集まった。テーマはふれあい。参加者が誕生月ごとに4班に分かれ、それぞれの今を語り合うふれあいの時間などもあった。

花火タイムやスイカタイムの後に、ファイナーレの時間。集合写真の後、テーマソングである「見上げてごらん夜の星を」の合唱、そして総代のスピーチで幕を閉じた。来年も8月最終土曜日に開催。

【樹心の会】9月8日

存明寺の月例の同朋会である「しんらん交流ひろば★樹心の会」の下半期が9月より始まった。勤行のあと門徒と住職よりお話があり、その後3班に分かれて語りあいの時間が行われた。お話の内容は次の通り。

末次皓子さん「自分の思い通りになることが幸せと思うところで生きている私。」

酒井住職「たとえ苦毒の中に身を置いて、それを引き受ける力が念仏である。」

樹心の会、どうぞご参加下さい。



↑ 亡き人をしので新盆合同法要(7月)



↑ 青年のつどい・花火タイム(8月)



↑ 親鸞に人生を学ぶ・樹心の会(9月)



↑ 青年のつどいオープニング・スタッフスピーチ(8月)



↑ 青年のつどいファイナーレ・集合写真(8月)

9月23日(日) 11時と13時 秋のお彼岸法要 ひがん

お話し：長島巖さん・竹谷タケ子さん・住職

内容：正信偈の勤行・お話し(一回30分の法要)

9月29日(土) 14時 グリーフケアのつどい

お話し：酒井義一存明寺住職

内容：勤行・法話・語り合い・音楽鑑賞

10月13日(土) 13時半 樹心の会 じゆしん

お話し：浮葉貴大さん・酒井義一住職

内容：勤行・お話し・語り合い・全体会

10月27日(土) 10時 おみがきのつどい

報恩講法要へ向けてのおみがき奉仕のつどい

作業内容：仏具のおみがき・境内清掃

11月2日(金) 14時 報恩講のゆうべ ほうおんこう

お話し：知花昌一さん(沖繩・何我寺)

内容：速夜勤行・法話

11月3日(土) 12時 報恩講法要 ほうおんこう

講師：知花昌一さん(沖繩・何我寺)

内容：お斎・報恩講法要・法話

11月17日(土) 13時半 樹心の会 じゆしん

お話し：羽田節子さん・酒井義一住職

11月24日(土) 26日(月) 真宗本廟奉仕団 しんしゆほんびやうほうじだん

※定員になりましたので申込みは切ります。

12月8日(土) 13時半 樹心の会 じゆしん

お話し：高橋昭彦さん・酒井義一住職

12月15日(土) 14時 グリーフケアのつどい しゆしようえ

1月1日(元旦) 10時 修正会

◎ぞんみようじこども会 月一回

◎ぞんみようじこども食堂 月一回

◎子育てサロンいちごのへや 月一回

報恩講法要のご案内 ほうおんこう

宗祖・親鸞聖人のご命日に行われる、浄 しゆそ しんらんしょうじん

土真宗で最も大切な法要です。

沖繩からはるばる知花昌一さん(大谷派

僧侶)をお招きします。親鸞聖人の教えに

出会われた感動を語っていただきます。

○報恩講のゆうべ(速夜法要・法話)

11月2日(金)13時半受付 14時開会

○報恩講法要

11月3日(土)11時半受付 12時お斎

お斎(精進料理のお昼ごはん)の後に、

報恩講法要・法話が行われます。

法話 知花昌一さん

(沖繩県何我寺・大谷派僧侶)

会場 真宗大谷派 存明寺

会費 お布施(おごころざし)

3日はお食事をご用意しています。

お申し込みは必要ありません。

○おみがき奉仕のつどい

10月27日(土)10時～12時

内容：仏具のおみがき・境内清掃

昼食はこちらでご用意いたします。

ご協力をよろしく願います。

深謝 すべての写真：高橋昭彦さん(存明寺世話人)

【あしがき】

▼各地で台風や地震などによる災害が

起こり、その中を人々は苦難をいただき

ながら生活されています。その人の生

きようとすお姿に敬意を表し、心よ

りお見舞い申し上げます。

▼9月のお寺の掲示板より。

話を聞いても 九割は忘れる

でも心に届いたことは 忘れない

心に響く言葉や教えとの出遇いを大

切にしたいものです。

▼存明寺の境内正面のモミジの木が半

分ほど枯れてしまいました。残った枝

に石でできたフクロウを3羽、置いて

みました。その写真が表紙(2羽)と

左(1羽)です。お寺に来られる方々

をお迎えする存明寺の新しいマスコ

ット、どうぞお見知りおきください。

(住職)



東京都世田谷区北烏山4-15-1
真宗大谷派 存明寺
住職 酒井義一(釋諦信)
〒157-0061 TEL 03-3300-5057
FAX 03-3300-5880
E-mail : sakai@zomyo.ji.jp